

DV被害者支援の実態に関する調査について（令和5年度分）

資料 2 - 3

調査の概要

姫路市では、姫路市配偶者暴力相談支援センターを利用したことがあるDV被害者のうち、現在安全が確保されている女性を対象に、どのような支援を受け、どのように感じたか等についてアンケート調査（郵送）を実施しました。

○調査時期	令和5年8月
○調査方法	アンケート調査（郵送）
○調査協力者数	4名（被依頼者4名）

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
1. 当時、どのような被害がありましたか。	A 身体的暴力 C 精神的暴力 D 経済的暴力 E 社会的暴力 F 子どもを利用した暴力	A 身体的暴力 C 精神的暴力 D 経済的暴力 E 社会的暴力 F 子どもを利用した暴力	A 身体的暴力 C 精神的暴力 D 経済的暴力 F 子どもを利用した暴力	A 身体的暴力 B 性的暴力 C 精神的暴力 D 経済的暴力 E 社会的暴力 F 子どもを利用した暴力
2. DVを受けた期間について。	E 5年以上	D 1年以上～5年未満	A 3か月未満	E 5年以上
3. 自分の受けた行為が、DVと気づいたきっかけは何ですか。	G DVセンター相談員からの助言 H その他（姉からの指摘）	G DVセンター相談員からの助言	G DVセンター相談員からの助言	H その他（自分で気づきました）
4. その被害について、姫路市配偶者暴力相談支援センター以外に利用された相談機関はどこですか。	A 警察 C 兵庫県の婦人相談所（シェルター） E 市役所（生活支援室）	A 警察 C 兵庫県の婦人相談所（シェルター） F 法テラス I 家族や親戚 J 友人・知人	A 警察 B 法務局（人権擁護委員など人権相談窓口）	A 警察 I 家族や親戚 J 友人・知人
5. 配偶者からの暴力についての証明書の発行について、発行を依頼したものは何ですか。	B 社会保険の離脱	A 児童手当の受給者変更 B 社会保険の離脱 C 年金事務における支援措置（受給者番号の変更）	A 児童手当の受給者変更 C 年金事務における支援措置（受給者番号の変更）	A 児童手当の受給者変更 B 社会保険の離脱 C 年金事務における支援措置（受給者番号の変更）
6. 被害からの回復について（ア）「落ち着いてきた」と思えた時期はいつですか。	C 離婚できた時	B 6か月後	B 6か月後	D その他（10か月後）
（イ）「回復した」と思えた時期はいつですか。	無記入	C 子どもたちを養っているという実感を得た時	A 就業を開始した時	C その他（まだです）
7. 子どもに関する相談及び面会交流（ア）子どもに関して相談された先はどこですか。	無記入	無記入	E その他（なし）	A こども家庭センター C スクールカウンセラー

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん
(イ) 面会交流はされていますか。	無記入	B していない	C 先方は希望しているが、実現できていない	B していない
8. 相談事項や、市等の関係機関へのご意見やご要望について (ア)被害を受けていた時の状態について A 相談をする原因となった事柄について、どのような支援を求めたいと考えておられましたか。また、その希望は、どの程度叶いましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に対する制限。私の居場所。 ・相手には、もう少し厳正にすればと後悔している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手方から逃げたい。 ・様々な手続きの方法を教えていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な場所への避難 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの児童虐待、私への暴力・暴言に限界を感じていた。 ・どこかに相談はしたかったです。考えたのは、弁護士・警察・DVセンター。警察に相談するのは、相談した後がどうなるのかが分からなかったため、相談は足踏みしました。弁護士は夫から細かく時間を管理されていたので、アボをとり相談するには難しいと感じました。
B DV被害をもっと早く把握するために、市などの機関がどのようなことに取り組めば良かったと思われませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・医者への権限。医師が市とか警察へ報告することへの進言。 ・警察への助言。 	無記入	<ul style="list-style-type: none"> ・土、日、夜間も相談できればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談を宣伝すること。(まだまだ、自分がDVの被害者と思っていない人が多いと思います。) ・電話相談の時間を長くしたり、土日にも対応されること。
(イ) 現時点の状況について A 今も思い出すことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手からの暴言、暴力。 ・人の前でバカにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふとした時に暴力を受けている時のことを思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に思い出します。
B 現在相談したいことはありますか。また、相談できる市等の機関はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・なし 	無記入	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの養育について。避難先の施設やこども家庭センターに相談しておりますが、思ったことを全て相談できる訳ではないので、自分の中で抱え込み、不安になることもあります。
C 市のDV相談支援センターや関係する機関に要望したいこと、ご意見などがあればお聞かせください。	<ul style="list-style-type: none"> ・市のDVセンターに相談出来て、良かったです。 ・医師は、DVがある事を知っていても、相手に忠告はしなかった。 <p>この度は、大変お世話人になり、ありがとうございました。これからの人生を楽しくしていける様に、がんばります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・とても親身にお話を聞いて下さりありがとうございました。なかなか離れる決心がつかなかったのですが、専門員の方から「○○ちゃんの大好きなママを傷つけてるのどこが良いパパなの？」という言葉でハッとしました。“○○ちゃんのお父さんだから”と思い、私がキレさせなければ、ガマンすれば全てうまく、丸くおさまると思っていました。離れる選択をして心から良かったと感じています。私自身もすぐ心が軽くなり、楽しく生活できていて、娘も以前よりのびのびと過ごしています。心配していましたが、一度もパパを探したり、求めることもなく、毎日、庭を駆けまわって遊んでいます。保護命令のおかげで、警察の方も定期的にご連絡くださいます。正直、心が病んでいて、とてもしんどかったのですが、離れる決心がついてから、とてものびのびと生活できていて心から良かったと思っています。背中を押して下さい親切に様々な手続きなども教えて下さり心強かったです。本当にありがとうございました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・市のDVセンターや市役所の方には、大変親身に相談にのって頂きました。私が今思うのは、被害者の私たちがどうして住み慣れた所から離れなければならないのか、夫が悪いのにどうして私たちがすべてを捨てて逃げなければならないのか。そこが納得いきません。私も子どもも姫路が好きでした。でも、今は親子共々、ニュースで見ただけでも思い出、辛い気持ちになるので、チャンネルを回すことにしております。